

広陵中だより



学校の教育目標
～ひびき合い 高め合う生徒～

可児市立広陵中学校

第 11 号 令和 8 年 1 月 23 日

「人権と命を大切にする学校」「明日も来たくなる学校」「笑顔溢れる学校」

校長 桂川 辰也

「先生になりたい」が育つ学校

先日、昔の教え子から

「子どもが先生になりたいと言っているが、正直やめてほしいと思っている」

という相談を受けました。



「色々な方面からの理不尽な要求に耐えられるのか」

「自分の時間は確保できるのか」

「心身を壊してしまうのではないのか」

そこには、我が子の幸せを願うからこそそのような不安が込められていました。

確かに、教員の仕事には忙しさや負担が伴います。私自身も、部活動や生徒指導で家庭に十分な時間を割けなかった時期があり、反省すべき点が多くあります。一方、得意

な分野で子どもたちとトコトン向き合えたからこそ、やりがいや充実感を感じられたのも事実です。

もし、経験や関心のない分野を一人で背負う仕組みであったなら、大きな負担になっていたと思います。

学校への要望については、部活動の地域展開など、教員一人に過度な負担を求めない方向へ社会全体が動いています。誰かの自己犠牲の上に成り立つ教育ではなく、それぞれの立場や得意を生かしながら支える形が、少しずつ広がってきていると感じています。

最終的に私は、教え子にこう伝えました。

「幸せかどうかを決めるのは本人。やりたいなら挑戦してみればいい。

合わなければ、別の道を選ぶこともできる。教員も一人の人間であり、家庭人であり、地域の一員として大切にされる時代になりつつあると思うよ。」

全国的に教員志望者が減る中で、広陵中学校には「将来、先生になりたい」と話す生徒がいます。この地域や学校に漂う**一人一人が大切にされているという「安心感」**が、生徒だけでなく教員の良さも引き出し、子どもたちの将来観にもつながっているからではないでしょうか。

2026年も、保護者・地域の皆様と力を合わせ、安全・安心な学校づくりにまい進してまいります。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

